

# 東京演劇集団風

## 〈俳優・スタッフ〉入団要項

# 東京演劇集団風〈俳優・スタッフ〉入団要項

## 目次

### 劇団概要

- 名称
- 劇団員構成
- 劇団付帯施設
- 入団要項

### 実習生について

- 応募資格
- 実習期間
- 実習および指導方法
- 主な実習課程
- 募集人員

### 研究生について

- 応募資格
- 活動内容と基本方針
- 実習および指導方法
- 募集人員

### 試験日

- 実習生
- 研究生
- 場所

### 劇団員について—

### 東京演劇集団風的主要レパートリー作品

### レパートリーシステムについて

### 受賞歴

# 東京演劇集団風〈俳優・スタッフ〉入団要項

## 劇団概要

〈今、なぜ演劇なのか、この時代、この社会において演劇の為すべきことは何であるか〉という問いとともに、1987年、東京演劇集団風を創立。

劇団の主な活動として〈レパートリーシステムによる劇場での上演〉〈海外交流〉〈青少年を対象とした全国巡演活動〉を行っています。

1999年、東京・東中野に拠点劇場〈レパートリーシアター KAZE〉を建設。理念・形にとらわれることなく、自由な精神を持って、「舞台と客席」の相互の交感のなかで演劇の本質を発見し、質の高い実践を目的とした〈レパートリーシステム〉を取る劇場として、本格的な活動を開始しました。

同時に群馬県みなかみ町に、専属の俳優・スタッフのワークショップの場、またレパートリー作品のストックヤードも兼ねた“月夜野アトリエ演劇工房”——思考し、実践を重ね、演劇の根幹と向き合う場——を併設。

レパートリーシアター KAZE は、劇団専属劇場の特色を活かし、20世紀を代表する亡命作家ベルトルト・ブレヒトや現代作家マテイ・ヴィスニユック(ルーマニア出身・パリ在住)の作品などの新作・レパートリー作品を柱に上演活動を展開しています。

2003年、《ビエンナーレ KAZE 国際演劇祭》を開催。ヨーロッパをはじめとする多国間による演劇人との交流、共同制作は今なお続き、現代演劇の可能性を追求しています。その協働から生まれた作品は、青少年を対象とした全国巡演活動での鑑賞へとつながっています。

レパートリーシステムによって観客とともに創り上げた作品や、海外の演劇人との共同制作によって生まれた作品が、全国巡回公演や、海外で上演され、またレパートリーシアター KAZE で上演される——この循環のなかで、私たちの演劇的試みを深化させるとともに、観客に対して自在に、そして舞台に対して意欲的に、創造活動を展開していきたいと考えています。

東京演劇集団風が思考し、実践を重ねる演劇。それは“新しい演劇の実践”ではなく、社会とその社会を構築する人々、つまり“現代と演劇の新たな実践のための演劇”の探求です。

## ■ 名称

株式会社 東京演劇集団風

## ■ 劇団員構成

代表 辻由美子 芸術監督 浅野佳成 ほか 30 名（俳優 26 名 スタッフ 6 名）

## ■ 劇団付帯施設

専属の拠点劇場〈レパトリーシアター KAZE〉 東京・東中野  
月夜野アトリエ演劇工房 群馬県みなかみ町・月夜野

## ■ 所在地

〒164-0003 東京都中野区東中野 1-2-4

TEL.03-3363-3261 FAX.03-3363-3265

E-mail:info@kaze-net.org

URL://www.kaze-net.org



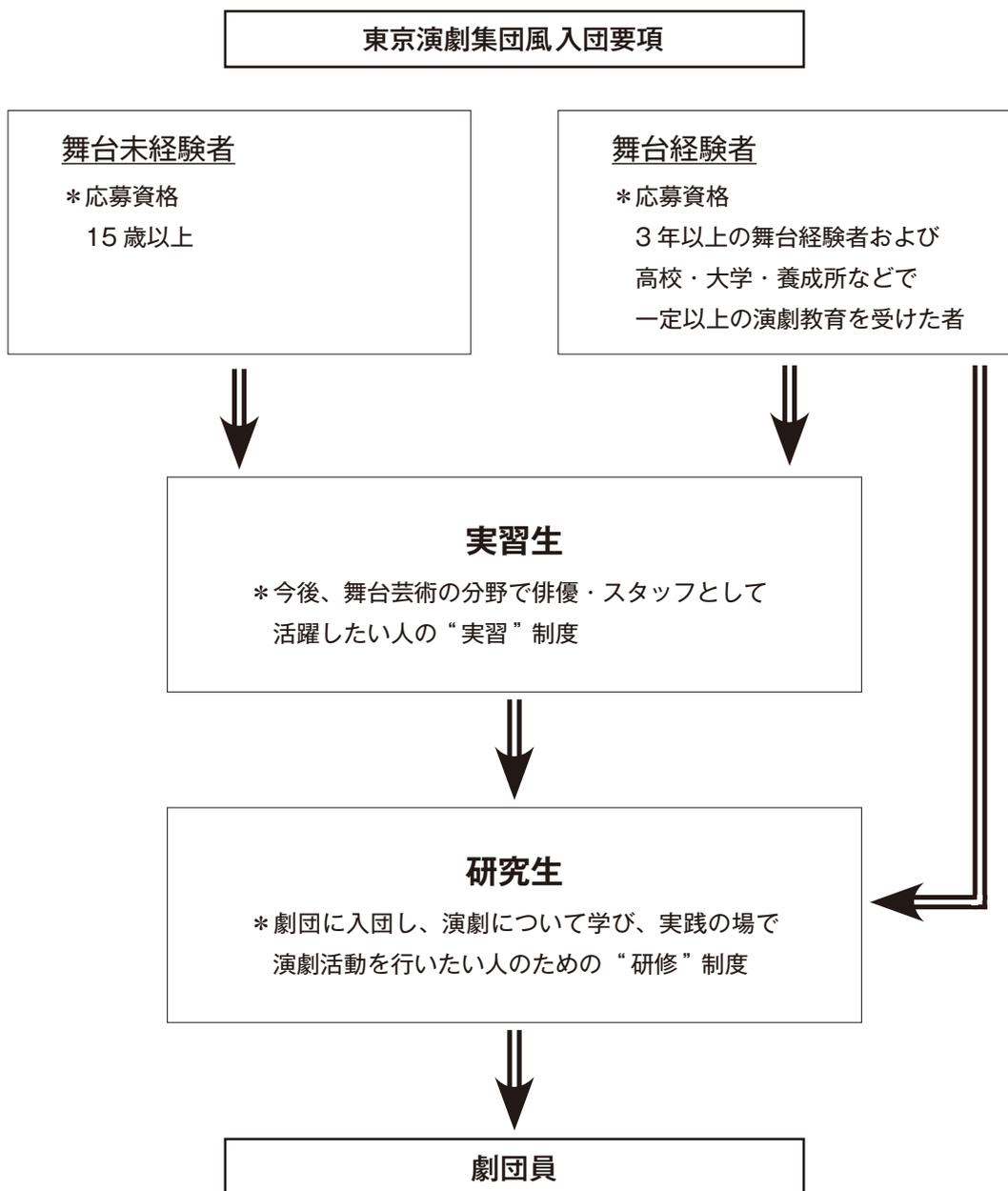
月夜野アトリエ演劇工房 群馬県みなかみ町・月夜野

専属の拠点劇場〈レパトリーシアター KAZE〉 東京・東中野



## ■ 入団要項

劇団は演劇を学び、将来、舞台芸術に携わりたい人、または入団を希望する人を対象に下記の要項にて実習生・研究生の募集を行います。



※ 上の図を参照して「実習生」か「研究生」か希望を述べて、劇団に“応募用紙”を請求してください。

※ 連絡は、電話または郵送で受け付けます。直接、劇団に取りに来てもらってもけっこうです。

## 実習生について

舞台経験の有無は問いません。将来、俳優およびスタッフとして舞台芸術に携わりたい人、入団希望者のための養成・育成のための“実習”です。1～2年(年齢・個人によって違いがあります)の実習期間を経て、その成果を修得した人は、希望により研究生として入団が認められます。



2012年度 実習生卒業公演  
マテイ・ヴィスニョック作／浅野佳成 演出  
『戦場のような女 あるいはボスニア紛争の戦場のような女の性について』  
倉八ほなみ (2017年入団)／高階ひかり (2015年入団)



ウィリアム・シェイクスピア作／ベトル・ヴトカレウ+浅野佳成 演出  
『ハムレット— to be or not to be』  
佐野準 (2006年入団)

### ■ 応募資格

15歳以上

### ■ 実習期間

1年ないし2年(年齢・個人によって差があります)

### ■ 実習および指導方法

劇団の創造活動に参加し、実践を通して『演劇』を学んでいく—というのが基本的な方針です。  
また俳優志望の人には、劇団の演出家・俳優がその指導にあたります。

### ■ 主な実習課程

- \*リーディング
- \*実習発表
- \*〈動き〉と〈身体〉のためのワークショップ等(発声・演技のための表現の指導もこのワークショップで行います)

### ■ 募集人員

若干名

## 研究生について

3年以上の舞台実績がある人、あるいは一定以上の演劇教育を受けた人で、入団を希望する人を対象に募集を行います(俳優およびスタッフ)。

〈3カ月の研修期間〉と3年間の研究生としての劇団活動の期間を経て、その実績が認められた人は、劇団員として入団が認められます。舞台経験の有無は問いません。

### ■ 応募資格

18歳以上。3年以上の舞台経験がある者、または高校の演劇科および専門学校、俳優養成所、大学の演劇科で一定の演劇教育を修了した者、およびそれに同等する教育課程を有した者(中途退学者は、その理由か指導者の推薦状を添えてください)。

### ■ 活動内容と基本方針

〈研究生〉の劇団における活動は、劇団員とほぼ同じ活動です。

◎リーディングや〈動き〉と〈身体〉をテーマとしたワークショップおよび上演現場での研修を3カ月間行い、その後、劇団の創作活動、上演活動に参加します。

◎また劇団の演出家・俳優による研究生のためのリーディング発表や作品の上演など、演技や舞台制作のための指導を行うと同時に、劇団の上演活動の実践とゼミナールなどを通して「演劇と社会」「演劇の本質」など、「今、人々にとって演劇とは何か——」を学び実践していくというのが基本的な方針です。

◎3カ月間の〈研修期間〉を修了した研究生には、研究費として月額8万円が支給されます。

◎〈研究生〉は劇団活動に参画し、俳優・スタッフ(演出も含む)として、舞台に携わりたい人の育成を目的としたものです。

### ■ 募集人員

若干名(3名以内)



マテイ・ヴィスニョック作／浅野佳成演出  
『ジャンヌ・ダルク——ジャンヌと炎』  
白根有子(1999年入団)／栗山友彦(1998年入団)

松兼功作／浅野佳成演出『ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち』  
中村滋(2006年入団)／渋谷愛(2007年入団)  
白根有子(1999年入団)／保角淳子



■ 1次募集

応募締切：2018年11月18日（日）

試験日：2018年11月25日（日）

■ 2次募集

応募締切：2019年2月17日（日）

試験日：2019年2月24日（日）

— 詳細は劇団までお問い合わせください

■ 試験内容

面接／実技（ワークショップ）

\* 試験日当日に作文「私と演劇」（400字×3枚以上）を持参してください

\* スタッフ希望の方は、自身の作品か実績となる資料を持参してください

■ 合格発表

後日、郵送にてお知らせします

■ 場所

すべて東京演劇集団風〈レパトリーシアター KAZE〉で行います

※ 実習生・研究生ともに月謝・実習費などは無料ですが、プロの舞台に立たせるための活動内容です。

〈演劇に携わる〉というはっきりとした意志を持ってきてください。

※ 実習生・研究生ともに原則としてアルバイトは禁じられます。

※ なお、劇団の実習生・研究生は舞台俳優・舞台スタッフ育成のためのものです。マスコミ・声優等、いわゆるタレント志望の方を対象とした募集は行っておりませんのでご注意ください。

## 劇団員について

劇団の運営—創作・上演活動の企画・立案・実行および経営は芸術監督のもと、すべて専属の俳優・スタッフによって行われています。

入団後、〈研究生〉から〈劇団員〉になった人は、芸術監督と専属・非専属（フリー）の契約を結びます。

専属の俳優・スタッフ（専属契約者）は規定に則して月額一定の専従費が支払われます。

非専属の俳優（フリー契約者）は年間50ステージの舞台活動と50ステージのギャランティが保証されます。



ライル・ケスラー作／浅野佳成 上演台本・演出『Touch ～孤独から愛へ』  
全国巡回公演の舞台

サン＝テグジュペリ作／浅野佳成 演出『星の王子さま』文化庁「文化芸術による子供の育成事業—巡回公演事業—」の舞台



## 東京演劇集団風の主なレパートリー作品

ベルトルト・ブレヒト作

肝っ玉おっ母とその子供たち — あとから生まれてくる人たちに

三文オペラ

マハゴニー市の興亡

乞食 あるいは 死んだ犬

第三帝国の恐怖と悲惨

セチュアンの善人

コーカサスの白墨の輪

マテイ・ヴィスニユック作

ジャンヌ・ダルク — ジャンヌと炎

フランクフルトに恋人がいるサクソ奏者が語るパンダの物語

戦場のような女 — あるいはボスニア紛争の戦場のような女の性について

ニーナ あるいは剥製のかもめの脆さについて

なぜ ヘカベ

母が口にした「進歩」その言葉はひどく嘘っぽく響いていた

アントン・パープロヴィチ・チェーホフ作

かもめ

三人姉妹

桜の園

サン＝テグジュペリ作

星の王子さま

ライル・ケスラー作

Touch ～孤独から愛へ

松兼功 作

ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち

ウィリアム・シェイクスピア作

ハムレット — to be or not to be

ブライアン・マキャベラ作

ピカソの女たち～オルガ

アルベール・カミュ作

異邦人



ベルトルト・ブレヒト作／江原早哉香演出「コーカサスの白墨の輪」

マテイ・ヴィスニユック作／江原早哉香演出  
「母が口にした「進歩」その言葉はひどく嘘っぽく響いていた」



## レパトリー・システムとは

**レパトリー・システム**：一般的にはプロデューサー・システムと対峙させて考えられている。

演劇の上演興行形態の上では、プロデューサー・システムは演目（プログラム）に沿って、個人あるいは団体のプロデューサーがプロジェクトを組み、興行の成績いかんによって上演の期間が決められていく。つまりロングラン興行がプロデューサー・システムの目的とされる。

これに対して、レパトリー・システムは、その劇場を運営する劇団ないしは芸術監督が上演の演目に対する創作意図・上演の内容に責任を持ち、ひとつひとつの演目をレパトリー作品にしていくことが目的とされる。

レパトリーとは〈劇団・演奏家などが、いつでも上演できるように用意してある演目・曲目・上演目録〉〈得意とする種目・領域〉とあるが、レパトリー・システムとは、劇団が繰り返し上演していく中で、その劇団独自のレパトリー作品をつくり出していくためのシステムであると言える。

また、レパトリー・システムについては、次のようにも記されている。

— 上演による観客の評価や反響を通じて、上演リストから外される作品もあれば、作品に手を加えられ、磨かれて完成されるものもある。

こうした創造過程の中でレパトリーは生まれることになる。この過程の歩み方、方法をレパトリー・システムと言うのである。このシステムによる劇場は、商業主義的でない、芸術的劇場と考えてよい（平凡社「演劇百科事典・倉林誠一郎」）。

劇団の創造姿勢、意味内容から言って、このレパトリー・システムによる上演活動がもっとも適切なのですが、多くの演劇集団が貸し館スタイルに頼らざるを得ない現状の中では、上演活動をレパトリー・システムに移行させていくことは困難であり、劇団が専属の劇場を持たない限り、自明のこととして、レパトリー・システムとロングラン・システムの折衷案の中で上演活動を続けていかなければならないというのが現状です。

上演のシステムが演目と観客に及ぼす影響、レパトリー・システムという上演の在り方が演劇集団（劇団）やそこに所属する俳優・スタッフの潜在的な能力を引き出す可能性——つまり1本1本の演目を使い捨てることなく、上演を積み重ね、劇団のレパトリー作品にしていこうという意図で1999年、東京・東中野に拠点劇場レパトリーシアター KAZE を建設しました。

柿落としはチェーホフ作『かもめ』とブレヒト作『肝っ玉おっ母とその子供たち』です。『肝っ玉おっ母とその子供たち』は6年間の歳月をかけて5回の上演を積み重ね、今、青少年のための全国巡演ができるまで育つと同時に、レパトリーシアター KAZE でも上演され続けています。

## 受賞歴

2004年 第11回湯浅芳子賞・戯曲上演部門

『肝っ玉おっ母とその子供たち』、『冬』などの舞台成果

2004年 第4回倉林誠一郎記念賞・団体賞

レパトリーシアターの確立を目指し特色ある世界演劇祭を実現した成果

2004年 第11回読売演劇大賞個人賞 辻由美子

『肝っ玉おっ母とその子供たち』『ゴドーを待ちながら』

2007年 バコビア市民劇場（ルーマニア・バカウ市）主催 一人芝居の国際大会「第2回ガラ・スター国際演劇祭」

に辻由美子が演じる『ピカソの女たち〜オルガ』が招待参加、最優秀大賞受賞